

こどもをまんなかにした 「ともに育て合うチーム」 の挑戦

～居場所からフリースクール、そして
「親の就労支援」へ～

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

みんなのBASE 瀬戸理音



仲間が、全国各地にいる
という働き方。

全国にいる仲間と、交流し学び合える。
地域の組織や、学校や、専門家と一緒に、
すべての命が尊重される世の中を追求していく。



● 数字で見るワーカーズコープ

事業所・出張所数

404箇所

現場数

1,348

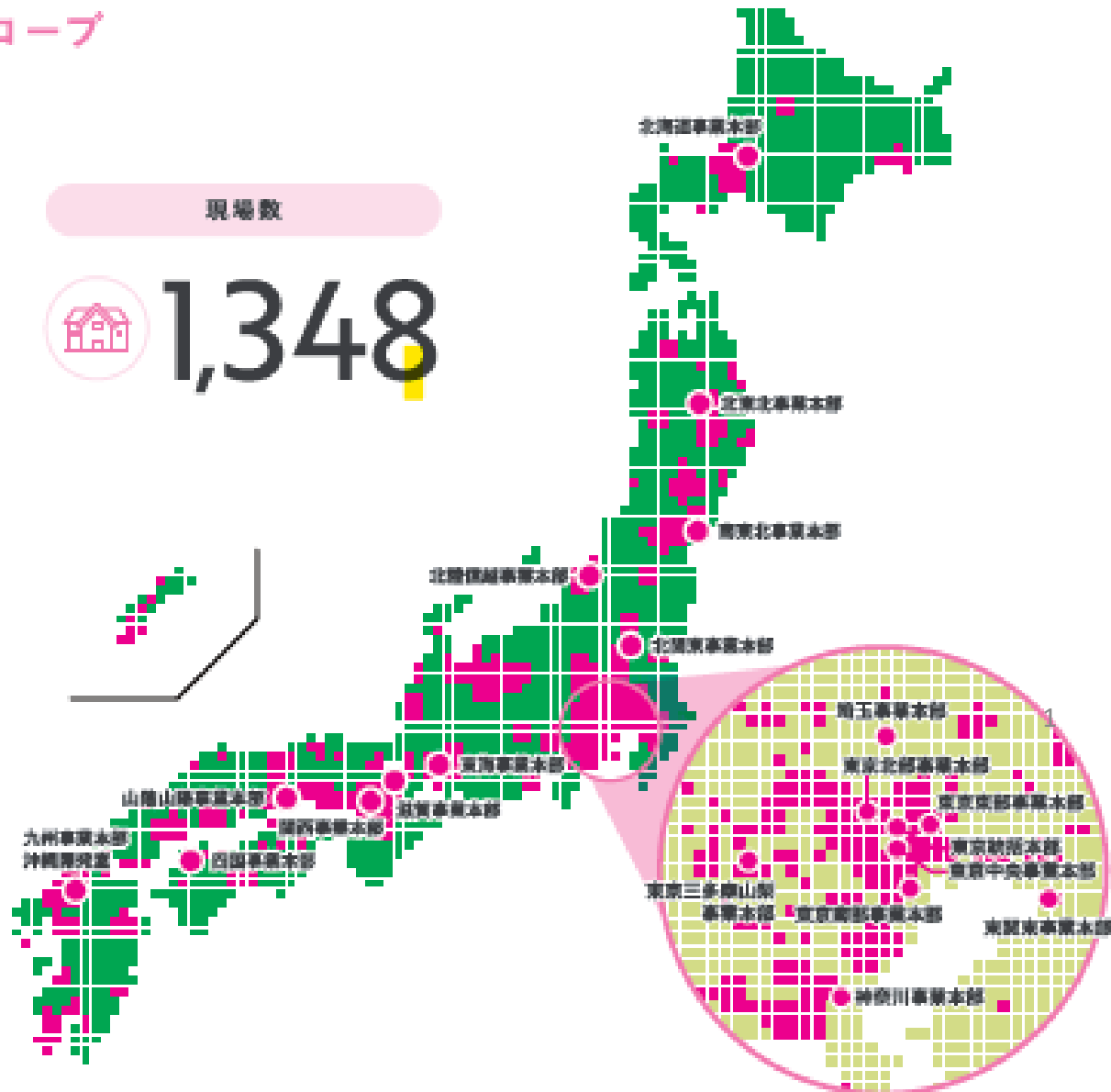
組合員数

7,919人

事業高

259億円

※2023年度



事業別現場数	子育て支援	373	高齢者施設の管理運営	38	製造・加工・販売	3	売店・直売所	14
	保育(園)	37	障害支援	34	農林業	9	屋外清掃(公園・公園・公園)	8
	障がい児通所施設(障がい児支援)	110	生活・就労・相談支援	20	BDF	3	緑化、廃棄物収集運搬	9
	総合支援(障がい児・児支援)	111	生活困窮者支援	85	建物管理	195	クリーンカー製造・販売	3
	障がい児/者支援	9	食費・暖房・配食	18	建物総合管理業務	43	園座	5
	介護保険・地域生活支援	111	施設給食・調理補助	11	公共施設の管理運営	38	その他	21
	高齢者支援	18	配食サービス	6	物流関連	16		

仙台地域福祉事業所けやきの杜 組織概要

- ・2008年4月1日 事業所立ち上げ
 - ・主に仙台市指定管理事業を受託運営
 - ・現在、児童館9館・子育て広場1館
- 事業所内保育園・**居場所事業(2021年)**
- 合計 12現場 / 就労者数 167名
組合員数 111名

事業高 5億2,640万円

こどもをまんなかにしたまちづくり

こども



全てのこどもが守られ、その子らしさが尊重されるよう「こどもの最善の利益」を第一の価値とします

- ・こどもの豊かな個性と想像力を伸ばし、様々な体験や活動を通じてこども自身の「生きる力」を育みます。
- ・児童虐待等の人権侵害の早期発見・早期対応に全力を尽くします。

子育て環境



- ・子育て中の家庭が自ら肯定感を持ちながら、こどもと向き合い、育ち合えるように保護者同士の交流や仲間づくりを推進します。
- ・総合的な支援によって、全ての家庭が安心とゆとりをもって子育て出来るよう、こどもや家庭の困難に寄り添います。

地域



- ・こどもを中心とした地域コミュニティの強い絆とネットワーク作りに取り組みます。
- ・こどもの社会性と豊かな人間性を育む場である地域を大切に、次世代の担い手づくりを進めます。
- ・福祉や教育、地域が協働して困難を抱える家庭を支える体制づくりに協力します。

だれかの「こまった」や「あったらいいよね」その小さ

な声をきっかけに、動いていく。

目指すのは、誰一人取り残されることなく

働きたいすべての人が働き

誰かの役に立つ喜びを得られる社会づくりを

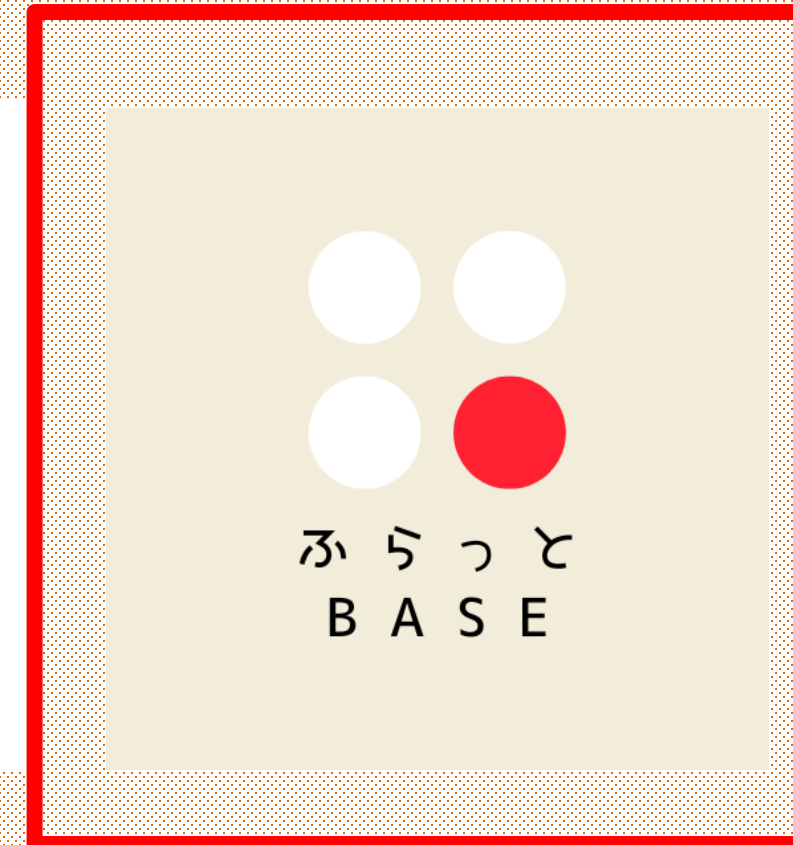
目指す。



みんなのBASEはなぜ誕生したのか？

- ・健全育成事業に携わり13年、たくさんの「困難さ」との出会い。
全国ワースト1位の宮城県内の不登校率。いじめによる親子心中。
待ったなしの深刻さがずっと身近にあること。
- ・コロナ禍真ただ中、先の見えない未来に「居場所の必要性」。
- ・組合員である前に「親」である私たち。
- ・目の前にいる子どもたちの「その時」に今から備えるため。
- ・「仙台市という屋号の重み」考えずに挑戦できそうだったから。
- ・学校を【外から支えるしくみづくり】が必要。

みんなの声からうまれた 5つのBASE



今回のテーマはこの2つ！



まなびやBASEは なぜ誕生したのか？

きっかけは『一人の母の切実な声』

「我が子の身体に起こっていることが理解できない。」

「不安感は夫に理解してもらえない。孤独で苦しい。」

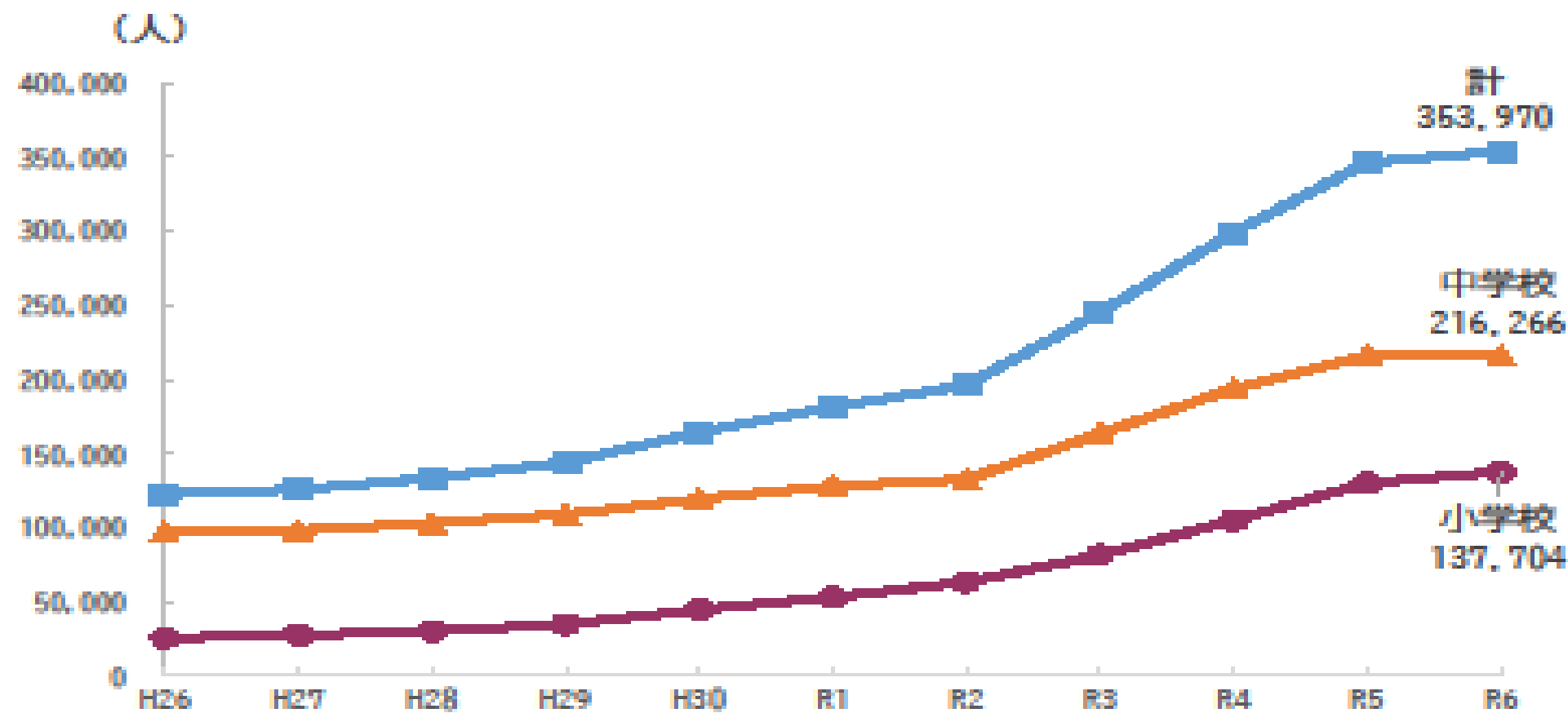
→ じゃあ、みんなで勉強してみよう！みんなで話そう！

こどもの権利、こどもアドボカシー、不登校関連施策など

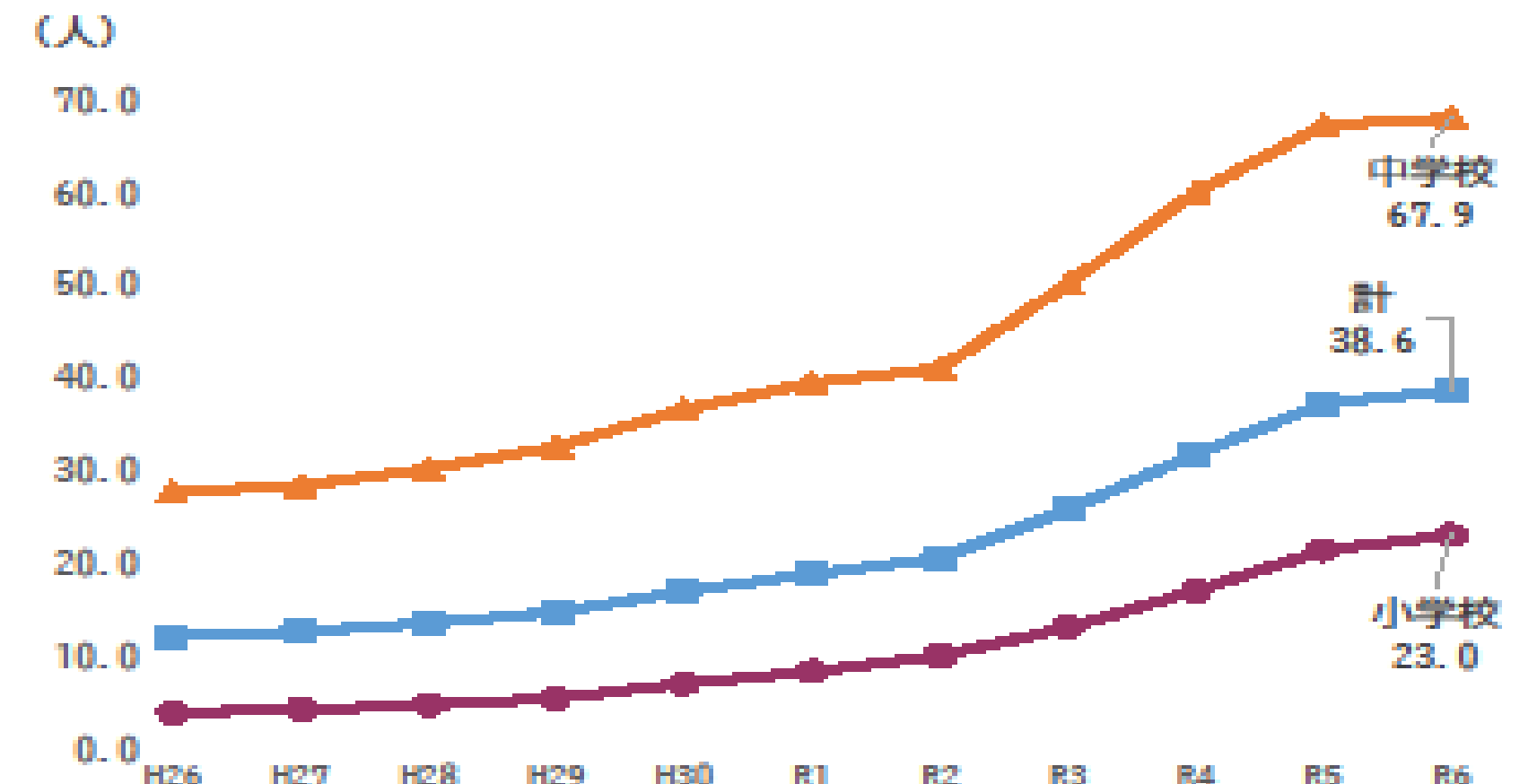
小・中学校における不登校の状況について

- 小・中学校における不登校児童生徒数は353,970人(前年度346,482人)と過去最多となり、12年連続で増加したものの、増加率は小学校5.6%(前年度24.0%)、中学校0.1%(前年度11.4%)、小・中学校全体2.2%(前年度15.9%)であり、前年度から低下した。
- 児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は38.6人(前年度37.2人)であった。

不登校児童生徒数の推移



1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移



不登校児童生徒数(上段)と1,000人当たりの不登校児童生徒数(下段)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
小学校	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350	63,350	81,498	105,112	130,370	137,704
	3.9	4.2	4.7	5.4	7.0	8.3	10.0	13.0	17.0	21.4	23.0
中学校	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922	132,777	163,442	193,936	216,112	216,266
	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4	40.9	50.0	59.8	67.1	67.9
合計	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272	196,127	244,940	299,048	346,482	353,970
	12.1	12.6	13.6	14.7	16.9	18.8	20.5	25.7	31.7	37.2	38.6

出典:令和6年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)



発展① 親の会を設立

『リゾームの会』始動

『ほのぼのカフェ』（隔月第三土曜日開催）

みんなで楽しいことをしながら、話せる時間。

こどもたちも参加できる。

みんなで遊ぶ、食べる、話す。



発展② 親の会から『居場所』へ

学校にいかない選択をした子どもたちの
「居場所」と「多様な学び場」をつくりたい！

『ホーム・ベース・ド・エデュケーション』

(家庭や地域を拠点とした主体的な学び・育ちの選択)



2025年4月 ふらっとBASE 誕生

フリースクール（火・水曜日）
10名登録。『元気貯金』の場。

【ふらっとBASEの理念】

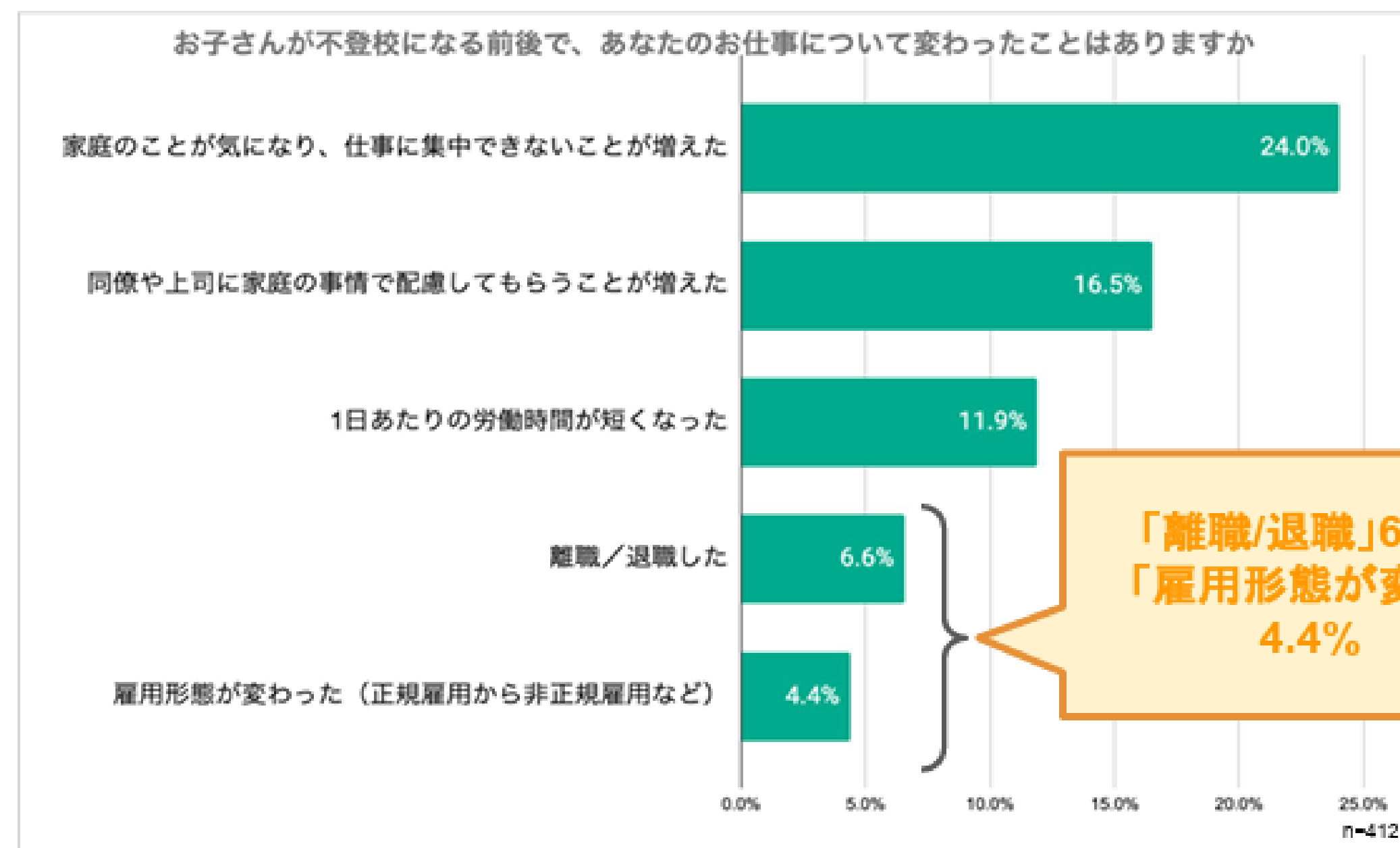
- ① 大人も子どもも対等に、ここを共に作る当事者であり、主体者であること。
- ② 全てにおいて、『対話』を大事にすること。
- ③ お互いを大事にすること。

今、直面している課題

～不登校による母たちの離職という現実～

退職/雇用形態変化など、保護者の環境に影響も

仕事を続けられたとしても「集中できない」「仕事場で配慮してもらったことが増えた」人も



Copyright © Katariba (Approved Specified Non-Profit Organization) All Rights Reserved.

- ・母子分離不安や自傷行為などのリスク無視できない。
- ・付き添い登校、在宅対応、学校や医療機関との連携
- ・遅刻・早退・欠勤が続き、業務継続が困難に。
- ・職場における無理解や心無い言動に心が折れる。
- ・特にシングル家庭は死活問題。
単なる教育問題ではなく、労働、ひいては貧困問題に直結している。

労協法で解決できる可能性は？未来とは？

私たちが解決する未来 その①

『支える』と『働く』を 両立させる仕組みづくり

- ・母たちを「支援対象」ではなく、共に働く「仲間」としてとらえること。
- ・法人内事業所での柔軟なワークシェアリング。就業規則の見直し。
- ・母たちのスキル(得意、好きなこと)を活かした仕事の創出。

他団体・企業や地域との連携

- ・他団体や企業へ「出向」という形での、就労の場を創出する。
- ・他団体や企業と業務提携をし、就労の場を確保する。
- ・地域における「社会資源活用」の発掘をする。

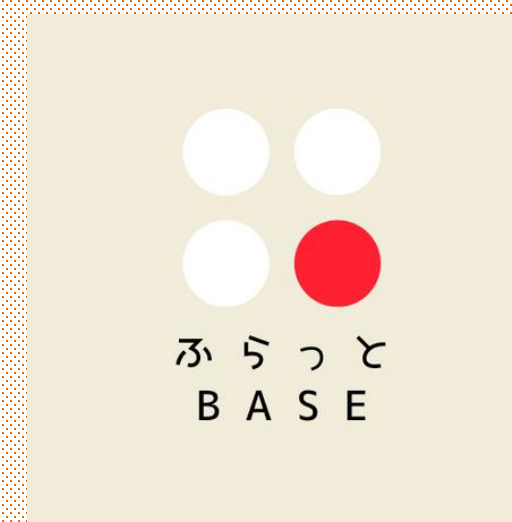
私たちが目指す姿は

「ともに育て合うチーム」

子どもをまんなかにした「チーム」は
地域のセーフティネットそのもの。

地域共生社会のモデルを
仙台から創りたい！





電話

080-7257-0781

メール

minnnanobase@roukyou.gr.jp

SNS





ご清聴ありがとうございました。